

中期ビジョン（5か年計画、R3年度～R7年度）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状や課題

平成26年4月に旧角館高校と旧角館南高校が統合し、新生角館高校が誕生した。両校が長い歴史の中で築いてきた伝統や特色を生かしつつ、新しい発想を加えながら、これからの時代や社会の変化に柔軟に対応した高校教育を推進していくことがこの地域の願いであると捉えている。ここ数年の進路状況をみると、大学・短大への進学者がほぼ半数、残りが専修学校・各種学校等への進学者と公務員を含めた就職者がほぼ同数となっている。普通科の進学校の指標として用いられる国公立大学への進学者はここ数年20名程度にとどまり、地域の要請に応じているとは言いがたい状況が続いている。しかしながら、部活動は、スキー部が毎年全国大会に出場しているほか、野球部が統合初年度である平成26年夏の甲子園に出場するなどその後も活躍を続けている。旧角館高校の前身である旧制角館中学設立に尽力された平福百穂先生の『尠(すく)なくも東北で尤(もっと)も優良な中学にしなくてはならぬ』という設立当時の思いに近づくことができるよう、生徒・教職員が思いを一つにしてさらなる飛躍を期したい。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

ここ3年ほど、大仙仙北地区の中学校卒業生数は微減の状態であったが、今後5年間で100名余りが、さらにその後の3年間で100名余りが減少する予測になっている。この地区では、現状でも大きく定員割れをしている高校があり、さらなる志願者の減少に直結する中学校卒業生の激減は大きな問題である。本校の志願者数はこれまでほぼ定員前後で推移してきたものの、令和3年度入試においては大幅な定員割れとなり、大きな危機感を抱いている。そのため、高校進学を目指す中学生やその保護者にとって、魅力ある高校であるためには何が必要か、この地域の人々が求める角館高校生像は何なのか、これらの思いにしっかりと向き合い、期待に応じていかなければならない。

3 目指す生徒像及び学校像

地域の人口が減少していく中、ふるさと秋田や地域社会を支えようとする高い志をもち、自らの社会的使命を自覚して様々な課題に積極的に関わりながら国際社会に目を向ける若者を育てていくことが求められている。そのため、「轟々参天、国家棟梁ノ材」となる人材の育成を目指す『若杉精神』、「清く賢く強い」人間の育成を目指す『駒草精神』のもと、『中学は角館に設立されればそれでよいとは思わぬ。それは尠(すく)なくも東北で尤(もっと)も優良な中学にしなくてはならぬ』という平福百穂先生の強い思いの実現に向けて取り組んでいく。

4 5年間で達成を目指す具体的な目標

人としての魅力を高める指導、及び生徒個々の潜在能力を引き出し主体性を高める指導等により、「郷土を愛し、この地域や国際社会で『棟梁之材』として貢献できる人材の育成」を教育目標に掲げて取り組んでいくこととする。この取組推進による具体的な達成目標は次のとおりである。

(1) 進路における具体的な目標

- ①国公立大学合格者40名以上 難関大、医学部医学科への合格者複数輩出
- ②公務員・民間企業への就職内定率100%

(2) 部活動等における具体的な目標

- 東北大会へ出場する部活動等の数 6 全国大会へ出場する部活動等の数 3

具体的な取組

- 1 今年度の「教育目標」「教育方針」「重点目標」
 - (1) 教育目標
～「郷土を愛し、この地域や国際社会で『棟梁ノ材』として貢献できる人材の育成」～
 - ①「若杉精神」及び「駒草精神」を継承し、自ら高い志を掲げて努力し、世の中を清く賢く強く生き抜く人材の育成
 - ②地域の文化・伝統・産業を知り、それに関する体験的・探究的な活動を通して、郷土愛と豊かな感性を育むとともに、主体的に学ぶ意欲を掘り起こし、創造性豊かでチャレンジ精神旺盛な人材の育成
 - (2) 教育方針
 - ①キャリア教育を教育活動の中心に据え、多様な進路に応じた学力を育むとともに、生涯にわたって学ぶ意欲や真理を探究し続ける人材を育成する。
 - ②国内外の高校、大学との連携・交流、第二外国語の履修等を通して、グローバルな感覚を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や発信力を育成する。
 - ③地域学習や伝統的な郷土の諸行事を通して、ふるさとへの理解を深めるとともに、豊かな心や郷土愛を育む。
 - ④生徒、保護者、教職員、地域とがそれぞれの立場から学校づくりに主体的に参画し、教育活動の充実、発展に取り組む。
 - (3) 重点目標
 - ①人としての魅力（心の偏差値）を高める指導
～「素直な心」「反省の心」「謙虚な心」「奉仕の心」「感謝の心」を育む教育～
 - ②個々の潜在能力を引き出し主体性を掘り起こす指導
～ 文武両道を支援する教育 ～
- 2 具体的な内容
 - (1) 『若杉精神』『駒草精神』を中心に据えた教育活動の推進
 - ①進路目標の達成と将来の自己実現に資する指導の充実
 - ・望ましい勤労観や職業観を育成するため、D-time（総合的な探究の時間：自己表現能力の育成）や、OB及び地元企業等の外部講師による講演会を実施し、将来の自己実現に主体的に取り組む態度を育成する。
 - ・地域の教育力を活用しながら、進学希望者を含めた全生徒へのインターンシップ等体験的な活動を実施し、職業への理解を深める。
 - ・D-timeを推進し、問題解決能力、プレゼンテーション能力等を高める。
 - ・学習意欲や技術・技能を高める資格取得や各種コンテスト、科学オリンピック等への積極的な参加を促す。
 - ②部活動の振興・充実
 - ・東北大会さらには全国レベルで活躍する部活動等を育成する。
 - ・部活動の充実により、変化の激しい時代を生き抜くたくましさを育成する。
 - (2) 地域や国際社会で『棟梁ノ材』として貢献できる人材の育成
 - ①地域の活性化に寄与する人材の育成
 - ・地域や企業が有する教育資源を活用した体験学習を積極的に展開する。
 - ・地元企業でのインターンシップ等により、その魅力を理解しながら、地域が抱える課題に向き合うことで地域の将来を担う意識を高める。
 - ・同窓会、PTA、地元企業等と連携した就職支援体制を強化・充実させる。
 - ・地域の一員としての自覚を高め、行事・祭典等への参加を促進する。
 - ・第二外国語の学びを生かし、地域での観光ボランティア等の活動を推進する。
 - ②グローバル化に対応した人材の育成
 - ・国際的な視野と教養を身に付けることにより、幅広いテーマについて英語で発表し議論できる能力を育成する。
 - ・仙北市が進める台湾交流と連携し、台湾姉妹校等との国際交流を推進する。
 - (3) 人としての魅力（心の偏差値）を高める指導
 - ・社会人として必要な基礎力や社会性を育むため、授業での生徒指導の充実を図る。
 - ・「ありがとう」の感謝の気持ちを忘れず、「すみません」と素直に言える心を持ち、謙虚で自分から進んで奉仕する、魅力ある生徒の育成を目指す。
 - (4) 教員の授業力の向上
 - ・ICT機器を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善に向け全教職員で取り組む。
 - ・教育相談やカウンセリング、コーチング等の手法に関する研修の充実を努める。
 - ・高等学校特別支援隊等と連携した特別支援教育に関する研修の充実を図る。

令和3年5月策定